

読書PR大会で読書の楽しさを伝え合おう

北海道三笠市立三笠小学校 教頭 柳谷直明

一 「言語活動の充実」は指導事項の具体化で達成できる

日本言語技術教育学会・第二三回大会(名古屋大会)では、『「単元を貫く言語技術」を説明する』をテーマとしたそうだが、「単元を貫く言語技術」とは、何か。「単元」とは、貫かれるものなのか。「言語技術」は串のようなものなのか。「言語技術」は尖っているのか。「言語技術」は「単元」を突き通すのか。一先ず本稿では、「単元」を構成する教材間で共通して使える「言語技術」を「単元を貫く言語技術」として書き進める。

「言語活動の充実」が各学校で達成されていない。それを目指していない訳ではない。目指しても達成ができていない。全国各地の先生に尋ねても母校の子供達の言語活動が充実した、と自信を持つて挙手する人は稀だ。北海道だけの話でない。「言語活動の充実」が達成されていないのは、言語活動を充実させるために必要な具体的な事項が分からないからである。何を指導すると読解が充実するのか。何を指導すると作文が充実するのか。何を指導するとスピーチが充実するのか。

各教科等には、指導事項が有る。『学習指導要領』の算数科には、「用語・記号」として「+・-・=」等が書かれて有る。内容には、加法・減法等が有る。生活科には、学校・家庭・通学路等、社会科には、都道府県等、理科には、体積等有る。国語科はどうか。例えば、低学年「書くこと」領域には、次の言葉が有る。「順序」、「構成」、「つながり」、「正す」である。これらは子供達に指導する言葉なので、指導事項と呼べる。問題は指導事項の抽象性である。「順序」よく書かせるために、「つながり」の有る文章を書かせるために何を指導すると良いのか。「構成」を考えさせるために何を指導すると良いのか。このように、国語科の指導事項が抽象的だから、言語活動が充実しない。したがって、指導事項の具体化が喫緊の課題だ。例えば、「順序」よく書かせるために順序語を、「構成」を考えさせるために起承転結や序論・本論・結論を、「つながり」の有る文や文章を書かせるために接続語を指導すると良い。このような指導事項の具体化で「言語活動の充実」が達成できる。

二 系統的な「学習用語」指導で言語活動を充実させよう

「技術」とは、「知識の安定的行為化」である。ここで言う「知識」が授業で指導する事項である。例えば、算数科で加法を指導する。この言葉を覚えた状態が「知識」の段階である。足し算ができ、加法の「安定的行為化」で「技術」へ達する。「言語技術」は「知識としての明示とその安定的行為化」と捉えて良い。明示で指導できるからだ。我々は国語の「知識」を「学習用語」と呼んでいる。そこで「言語技術」を『学習用語』としての明示とその安定的行為化」とする。

「鍛える国語教室」研究会では、「言語活動と言語活動を上達させるための具体的な指導事項」を「学習用語」として提案している。二〇〇四年に拙書『〈学習用語のカテゴリー化〉で〈国語学力〉を育てる』（明治図書）にて、「学習用語」を発表した。ここに書いた「学習用語」を私家版『鍛える国語教室』（第一六号）二〇一二年一月初版刊で書き換えた。更に現在、『国語科「学習用語」辞典』の執筆で「学習用語」を書き換え続けている。「学習用語」の精選が我々の今の課題である。

単元はいくつかの教材できている。例えば、『ずうっと、ずっと、大すきだよ』（小一下、ともだち、光村図書）の本文後に、こう有る。「すきな 本や、おもしろかった 本を カードに かいて、ともだちに しらせましょう。」表現活動だ。同ページに〈カードに かく こと〉として次が有る。「本の だいたい」、「おはなしに 出て くる 人や どうぶつ」、「おはなしの 中で あった こと」である。読解で習得させた内容を表現で使わせる意図だろうが、これでは少ない。

子供達の読書量が少ない、更にスピーチが充実していないという実態の改善を目指して、本単元『読書P R大会で読書の楽しさを伝え合おう』を設定した。『ずうっと、ずっと、大すきだよ』の読解指導後、読解指導で習得させた「学習用語」を読書P Rという表現活動で活用させる。（先の教材で主に習得させ、次の教材で主に活用させる。）「学習用語」の詳細は学習指導（案）に書いた。読解指導で習得させ、表現指導で活用させる「学習用語」を「単元を貫く言語技術」として提案する。

「学習用語」はできるだけ奇数学年で初出し習得させ、偶数学年で活用させると良い。例えば偶数学年のマスターカードも奇数学年から使わせる。「話すこと・聞くこと」領域では、一年生でインタビューを、二年生でポスター・セッションを、五年生でパネル・ディスカッションを初出すると良い。これらの対話活動を充実させるために、スピーチや聴取を先に充実させる。「学習用語」をカリキュラムに明示し、教材・領域・学年・学校間で系統的に指導して言語活動を充実させよう。

（私家版『鍛える国語教室』を希望される方は柳谷へメールを下さい。お譲りします。 naoi-2006@topaz.plala.or.jp）